

6-2					
主題		より適切な車イスシーティングを目指した取り組み			
副題		体圧分布測定器を用いた検討			
キーワード 1	シーティング	キーワード 2	体圧分布測定器	研究(実践)期間	3ヶ月

法人名・事業所名	社福) 同胞互助会 特別養護老人ホーム愛全園				
発表者(職種)	甘利昇(介護職員)、西澤輝(介護職員)				
共同研究(実践)者	杉本諭(理学療法士)、宮城哲郎(介護職員)、大村聖路(機能訓練指導員)				

電話	042-541-3100	FAX	042-546-8284
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	<p>社会福祉法人同胞互助会を母体とし、ショートステイを含めた特別養護老人ホームです。定員は特養 112 名、ショートステイ 20 名です。</p> <p>医療、看護、介護、栄養、機能訓練が充実した施設です。ほぼ毎日クラブ活動、行事が行われ、ボランティア、アクティビティ活動が盛んに実施されています。</p>
-------	--

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

自力歩行が困難な高齢者では活動性が減少することが多く、運動機能や認知機能の低下、心肺持久力の低下などを生じやすい。このため離床時間をできるだけ増加し、寝たきり予防に努めている。一般的には離床の際には車いすを使用するが、自力歩行困難な高齢者では下肢筋の萎縮や軟部組織の脆弱化が生じやすく、座位姿勢における殿部への過剰な荷重は皮膚トラブルを招来する恐れがある。このため除圧クッションを使用しているが、クッションの選定は経験則や備品の状況によって行われており、すべての利用者に適切に選定されているとは言い難い。したがってより適切な座位状態で離床を行う手段を検討することが必要であると考えられる。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

本施設では 4 月より体圧測定器を導入し、車いす座位やベッド臥床時の体圧分布を調べ、皮膚トラブルの改善・予防を試みている。現在、車椅子を利用している者のうち、長時間の座位保持が不良な者や殿部の皮膚に発赤の生じている者に対し、車椅子座位時の殿部の体圧分布を測定し、その結果をもとにシーティングの修正を行い、経時的変化を評価している。本研究では、これまでに行った事例を紹介し、体圧測定器を用いたシーティング調整の有用性について言及する。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・体圧測定器を使用し座位バランス・圧力を測定(20分、60分)
- ・測定データに基づきシーティングを実施

事例①仙骨部の皮ムケを繰り返していた利用者に対してのシーティング調整

栄養状態は良好。清潔保持の為排泄介入を増やす。施設内で最も除圧力の高いエアマットや車い

スクッション使用。体位交換・離床時間コントロール実施。看護による処置。以上の対応をしながらも皮膚状態の改善悪化を繰り返していた。体圧分布測定器にて圧分布を測定した結果、仙骨部を中心に圧が掛かっていた。施設内にある除圧力が2番目に大きいクッションにて測定したところ、殿部から大腿部までの広い範囲で圧分散されていた。全体での除圧は使用していたクッションの方が高いが、患部に関しては除圧力の低いクッションの方が適切と考えシーティング調整行う。

事例②車イス上での体幹傾きが強い利用者に対してのシーティング調整

長時間の座位保持困難チルト式車難のいす使用。移乗直後は姿勢保持されているが、時間と共に体幹が右へ傾き自ら修正不可。背部にバックサポートを入れて対応するも著明な姿勢の改善はみられなかった。体圧測定期にて圧分布測定、見た目では分からなかった右殿部への圧分布が測定される。座位バランス不良に対し右殿部の下方からタオルを使用したシーティング調整行う。

#### 《4. 取り組みの結果》

事例①皮膚状態の改善がみられ、2週間経過後、看護処置終了。

事例②著明な座位崩れを防止。食事後すぐに臥床を訴えていたご利用者からの訴え減少、適切な座位で離床時間を確保できるようになった。

#### 《5. 考察、まとめ》

殿部皮膚トラブルが起きたら施設内にある除圧力最大のクッションを使用するといった画一的な対応では根本的な解決が難しかったご利用者に対し、体圧測定器を使用し圧分布を把握する事で適切なシーティングを行う事が出来た。見た目だけでは座位バランスの不良が見分けにくい利用者に対し画像データを用いることで原因を明確にしシーティング調整が行えた。その他の事例についても測定を行う事で問題点が明確になり改善が図れたと考える。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

「座位が変われば暮らしが変わる」(2009)、大淵哲也、中央法規出版

#### 《8. 提案と発信》

体圧分布測定器の使用により、ご利用者個々のシーティングの問題点を明確にし直接アプローチができた事にご利用者の生活の質向上につながったと考えます。適切なシーティングをご利用者毎に行う事で快適な離床環境を提供し寝たきり予防に努めていきます。